

「新しい東北」官民連携推進協議会

**令和6年度
意見交換会(第2回)**

福島県

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

2024年10月9日

● 第1回意見交換会からの調整状況報告

◆ 第1回意見交換会でいただいた意見を踏まえ、企画内容の調整を実施。

実践の場

<ご意見>

- ・過去2年間に参加した学生参加者も20数名に拡大し、東京や全国の学生への広がりが出てきたため過去2年分の積み重ねの反映が必要。
- ・昨年から参加された学生たち、全国の学生にも参加できる形式にするのがよい。
- ・昨年までの取り組みは、若い世代に福島の課題や魅力を伝えることが重要とされ、学生たちが参加するだけでなく、地域の方とコミュニケーションを取る機会を作ることが重要だと考える。
- ・昨年の実践の場では、運営委員会方式を採用し、運営委員会がコンセプトを固め、多数のアイデアを検討し、学生の参加が活性化し、自ら企画を立案する気持ちが育まれた点良かった



◆ 計画推進体制の見直し ➡ ● 運営委員会の発足による推進

- ・これまでの取り組みを活かし、「ふるさと愛プロジェクト」を継続して実施することで、施策を磨き上げ、参加者と福島の関係性を更に深める
- ・昨年、一昨年の参加者学生、運営委員会学生に声かけを行い、今年度の運営委員会（全5回）を発足させ、同委員会において今年度の企画案について検討をすすめる。

招待状作成ワークショップ

◆ これまでの取組を反映した招待状 ➡ ● 運営委員会による作成

- ・前年度までの取組を活かした招待状を作成するため、第1回運営委員会にて、運営委員会で作成することを決定。運営委員会の進行に合わせて、招待状作成を進めていく。

● 運営委員会について

【運営委員会メンバー】

昨年までの参加者から7名の学生、副代表団体から2名のアドバイザーを迎えたメンバーで編成。

＜令和6年度 運営委員会メンバー＞		R5運営委員会	R5参加者
1	東京大学 学生	●	●
2	東京大学 学生	●	●
3	岡山大学 学生		●
4	長崎大学 学生	●	
5	福島大学 学生		●
6	福島大学 学生		●
7	福島工業高等専門学校 学生	●	●

＜令和6年度 運営委員会アドバイザー＞		氏名
1	ふくしま連携復興センター 代表理事	天野 和彦
2	福島大学 地域未来デザインセンター 特任准教授	藤室 玲治

【運営委員会開催状況】

第2回までの運営委員会において、今年度の企画内容について議論を実施

実施回	開催日時	議題・内容
第1回 運営委員会	8月29（木） 17:00-18:40	■参加者自己紹介/昨年の振り返り/今年度取組「実践の場」「招待状WS」説明 ■「実践の場」「招待状WS」についてブレインストーミングと意見交換 ○プログラムで体験したいこと、体験させたいこと ○アウトプットは何を誰に届けたいか ■第2回に向けたチーム別ミーティングの設定（全体構成・アウトプット）
チームA ミーティング	9月18（水） 19:30-20:10	■「実践の場」の構成イメージ ○第2回で話し合う全体構成、アウトプットについて議論
チームB ミーティング	9月17（火） 18:00-19:30	■「実践の場」の構成イメージ ○第2回で話し合う全体構成、アウトプットについて議論
第2回 運営委員会	9月20（金） 19:00-21:00	■両チームで議論された内容を発表し、全体で議論（全体構成・アウトプット） ○プログラム内容・日程別スケジュール・訪問場所・アウトプット・参加対象者について議論 ＜第3回までのアイデア提出＞ - 実践の場：参加対象者設定・体験させたい場所や人・イベント名称 / - 招待状WS：構成イメージ・掲載したい場所・写真・メッセージ・サブタイトル

● 運営委員会での議論状況

第2回運営委員会では、2グループのアイデアをもとに、プログラム内容とアウトプットのアイデアについて議論

	Aグループ	Bグループ
実施したいこと	・浜通りには、震災後に戻ってきた方が多く、以前からその地域に住んでいる方へ訪問し交流する ・訪問先などでインスタントカメラで記録し、アウトプットに活用するのがよい。 ・トークフォークダンスをやり方を変えて実施するのはどうか。	・移住者ではなく、以前からその地域に住んでいる方を話するのが良い。 ・旅行や移住の面でも、福島に興味を持ってもらう方を増やすことを目標としたい。 ・Instagramを活用した発信をアウトプットとするのも良い。
具体的な検討内容	<トークフォークダンス実施における改善・変更点> ・会場全体でトークが進行するため、相手方の声が聞こえ辛くなる。1名に対して、リレートーク方式を検討するのはどうか。 ・リレートークに参加いただく地域の方の情報を事前共有しておき、当日実際に有って話を聞けるほうが理解度が高まる。 ・トークフォークダンスをワールドカフェ方式で実施してはどうか。（参加者を軸に、学生が回遊する形式）	<Instagram展開における検討> ・イベントタイトル案「インスタで発信しよう福島のふるさと愛」 ・簡単な映像なども投稿でき、学生たちが直ぐに発信できるのが良い。校閲面でも、Instagramであれば文面の修正が可能。 ・グルメや観光に特化してしまうと、それ以外が紹介しづらくなるので、あくまでもふるさと愛をベースに、多面的に紹介できる。 ・訪問対象によってグループ分けして活動するのも良い（伝統文化・食文化など）
アウトプット	・ポスターセッションは、アウトプットとしての展開を再考する必要があるが、参加者にとっては、体験を整理するのに有効的なため実施したい。	・広く様々な人へ広げたいため、Instagramを活用した展開をするのはどうか。活動で感じた事を各々で表現することができる。
実施スケジュールイメージ	<1日目> AM：集合・移動 PM：Jヴィレッジで地域の方との交流（TFDなど） <2日目> AM/PM：1日目に交流した方へ訪問 <3日目> AM：アウトプット作業 PM：アウトプット発表	<1日目> AM：集合（移動バス内で参加者の自己紹介や交流） PM：全員で訪問・体験 <2日目> AM/PM：グループで訪問・体験（随時Instagramへ投稿） <3日目> AM：グループで訪問・体験（随時Instagramへ投稿） PM：投稿内容と工夫点の発表



- アウトプット：ポスターセッションによる発表とInstagram発信を併用した展開を検討・調整する。
 - 実施内容：参加者に体験させたい・会わせたい人を第3回までに運営委員会で検討する（アイデア提出）
- その他、参加者の設定と集め方、イベントの名称、10月から始める招待状作成に対しても第3回までにアイデアを提出

● 運営委員会での議論状況

＜調整の整理＞

	第1回意見交換会からの調整	運営委員会での決定事項・決定方針
実践の場	＜企画内容＞ 昨年までの参加学生を軸に、運営委員会を発足し、運営委員会にて企画内容を検討し決定する。 ＜運営委員会の構成＞ 昨年の実践の場に参加した学生7名、アドバイザー2名の9名体制。	＜開催日程＞ ●2025年2月17日（月）～2月19日（水） ※運営委員会参加者のテスト期間終了後に設定 ＜会場＞ ●Jヴィレッジ ※Jヴィレッジを活動拠点として、プログラムの実施、各訪問の組み立てを行う。 ＜当日の参加者＞ ●運営委員会学生によるチラシ配布、声がけにより、運営委員会学生の「ふくしま愛」に共鳴する学友、知人を対象に募集を行う ※具体的な募集方法は、第3回運営委員会にて決定させる
招待状 ワークショップ	＜取組の方向性＞ 観光が一面に出るだけでは無く、これまでの「ふるさと愛プロジェクト」の取組を反映した内容の招待状を作成する。 ＜参加者の設定＞ 昨年までの実践の場に参加した方に、「ふるさと愛プロジェクト」を表現した招待状を作成いただく。	＜参加者の設定＞ ●運営委員会内の取り組みとして作成 ※運営委員会の進行に合わせて、招待状作成を進める

● 今後の運営委員会の進め方

今後の運営委員会で、決定する必要がある項目は下記内容とし、運営委員会内で共有を行った。

第3回 運営委員会 (10月下旬予定) 10月23~25日にて 調整中

<実践の場>

- ・希望する訪問先の決定（以降、事務局により調整連絡を実施）
- ・訪問方法の検討（チーム分け・ルート設定など）
- ・参加対象者の決定（事務局がチラシデータを作成、第4回運営委員会にてデータを共有）
- ・チラシの送付（運営委員会学生による学内配布を予定※11月下旬までには納品見込み）

<招待状作成ワークショップ>

- ・テーマや掲載内容の方向性を決定（※委員会実施前に各自よりアイデアを提出）
- ・構成案（場所・人物など）決定
- ・ページ構成担当決め（第4回までに担当が掲出内容に沿った使用画像イメージ・メッセージ案を検討）

第4回 運営委員会 (11月下旬想定)

<実践の場>

- ・訪問先の決定（事務局による調整連絡後の状況共有のうえで決定）

<招待状作成ワークショップ>

- ・ページ構成に関して担当者からの提案を委員会内で確認・検討
- ・構成決定（以降、事務局により写真素材手配・入稿データ作成）

第5回 運営委員会 (12月中旬想定)

<実践の場>

- ・プログラム最終調整（第4回以降に調整が必要となった場合）
- ・プログラム最終決定
- ・集合・宿泊等、当日プログラム以外について共有（事務局にて最終調整後、参加者に個別連絡）

<招待状作成ワークショップ>

- ・最終データを運営委員会に事務局より提出、確認

● 調整後の取組内容

◆ 招待状作成ワークショップ【運営委員会で作成】

＜主な進行スケジュール＞

- ・ 第3回運営委員会（10月）：候補地の洗い出し・紹介企業や人物のイメージ設定・担当分け
- ・ 第4回運営委員会（11月下旬）：候補地・企業・人物の決定・文字構成案・ページネーション構成
- ・ 第5回運営委員会（12月中旬）：文字校正・最終調整（不足情報は別途取材想定）

※運営委員会での最終構成完了の期日は12月20日の想定



以降、事務局による最終調整

＜事務局による作業＞

- ・ 2025年1月：入稿データ調整・翻訳・イベント用パネルデータ作成
- ・ 2025年2月：入稿データ最終調整・翻訳版入稿データ作成
- ・ 2025年3月：日本語版・英語版 PDF版、冊子版納品



＜大阪・関西万博 会場での活用＞

2025年5月19日～24日 復興庁の出展期間中に会場で配布など

※活用の手法に関しては、現在検討中のため、追って情報共有させていただきます。

◆ 招待状作成ワークショップ【大阪・関西万博 復興ポータルサイトとの連携】

【WS開催状況の報告掲載】 ワークショップ開催の様子を掲載します。（取材等はなく、現地で写真を撮影して紹介します）

【ネット投票の実施】 リアルでの投票に合わせて、ポータルサイト内でも人気投票を実施します。

【完成データの公表】 完成した招待状の冊子を専用ページで公表し、閲覧・ダウンロードできるようにします。

【万博会場での活用】 完成した冊子やデータを復興庁出展期間（2025年5月19日～24日）で活用します。

※活用の手法に関しては、現在検討中のため、追って情報共有させていただきます。

＜実施検討中の内容＞

【100日前イベントへの参加者の登壇】復興庁出展の100日前前後に、福島、宮城、岩手の3県でイベントを実施予定です。

※イベントステージにて、参加者に登壇、招待状の紹介を調整中です。

＜議題①＞

実践の場・招待状作成ワークショップ^o修正内容について

副代表団体のみなさまから、今年度の取組に関するご意見ご要望を
お聞かせいただければと思います。

＜議題②＞

来年度の「実践の場」取り組みの進め方に関して

- 来年度の「実践の場」内容について
(運営委員会の発足是非、メンバー構成・実践の場の参加者の集め方など)
- 全体のスケジュール感について
- 副代表団体と事務局との連携について
- その他ご意見